

ほか ワンセグー高瀬の 番組チェック

文：高瀬徹朗 Takase Tetsuro

本誌放送アナリスト・ワンセグウォッチャー

発生から時間が経過した現在もなお、日々の生活にさまざまな影響を与えている「東日本大震災」。フル活用を期待していたワンセグデータ放送は不完全燃焼（あくまで個人的見解）に終わり、ネットやらTwitterやらが情報ツールとしてもてはやされる歯がゆい現状。各局の担当者らはどう感じているのか、緊急調査を行った。

ワンセグチェック【特別編】

東日本大震災

担当者からもジレンマの声

そのときワンセグデータ放送は……Part 2

個人的に感じた 今回の課題点は……

発生当日における在京局ワンセグデータ放送の詳細については前号参照として割愛させてもらうとして、個人的に不満の残った部分を挙げていこう。

まず、第一に「連動コンテンツが一発起動しなかったこと」。これは全局共通で、扱いは通常非連動ページのコンテンツ扱い。番宣メニューやエンタメメニューと並んで緊急災害用メニューが表示されている様子には違和感しか覚えなかった。

無論、その特設メニューを最上段に配置するなど一定の配慮は見られたものの、緊急時において「一度余計に選択する手間」を与える必要があったのだろうか。中には起動後の数秒間、操作不可能な番宣告知が流れていたケースもあり、およそ緊急時に活用できるツールとは思えなかった。

次に、最もワンセグデータ放送に適していると思われる情報が必ずしも掲載されていなかったこと。当日であれば都内の帰宅難民受け入れ先、その後であれば計画停電情報がそれに当たる。

帰宅難民であれ計画停電であれ、少なくとも固定テレビは利用できない状況。だからこそワンセグ、そしてデータ放送となるはずなのだが、情報が掲載されていない、または掲載されていても探しにくいというのが正直な感想。おそらく、該当者は皆、ケータイインターネットなどを頼りにしたものと考えられる。

そして最後に、ピンポイントで求められる情報提供体制が整っていなかったこと。これは第二の課題とも共通する部分があるが、例えば在京局管内において東北地方の

津波警報は緊急性を要する情報とは言えない。仮に津波警報なら、千葉や茨城など、関東圏のみに絞って情報提供を行っていてもよかったはずだ。

これはネット局を含めたデータ放送制作体制に関わることなので難しい面があるが、キー局頼みでデータ放送を制作していると、いざというときに困る、ということもローカル局側が感じとるべき事項だろう。

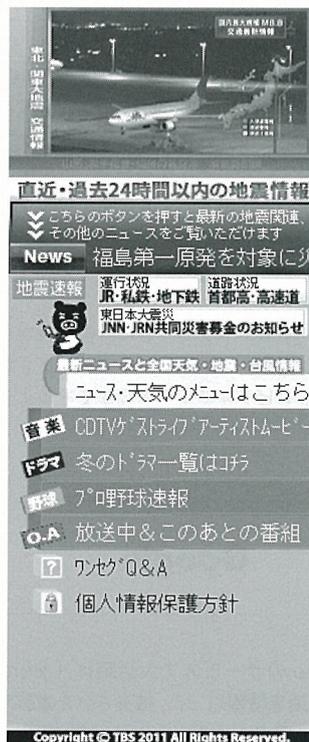
担当者からも 「充実度は薄かった」の声

さて、こうした課題に対する各局の反応。「十分な対応ができたと思う」と自己評価する声もあることはあったが、あくまでそれは一部。基本的には担当者の歯がゆい思いが伝わってくる回答が多かった。

こちらはある民放キー局の回答。「内容充実度は薄かったと思う。安否情報、避難所情報、計画停電情報など、ワンセグの特性に応じた有益情報を提示しなかった」。

したくてもできない、という気持ちが伝わってくる回答だが、今後についても「原発関連や計画停電など、視聴者の関心が高そうなコンテンツは用意したいと思うが、情報更新をどれほどリアルタイムにできるかなど難しい面があり、実施できるかどうかはわからない」（同）という。

察するに、放送本線や緊急告知などと同様の情報ライン上にデータ放送が位置づけられていない、という状況がうかがえる（全局がそうとは言えないが）。あくまで本線や緊急告知優先で、データ放送に情報が回ってくるのはその後、という形がとられているのであるとすれば、担当者の努力で何とかできる問題ではあるまい。



また、別の民放局の回答で「特設ページを用意したことで、利用しやすい形をとれたと思う」と評価する声があったが、これも一概にうなずくことはできない。普段からワンセグに慣れ親しんでいるユーザはともかく、そうでないユーザにとってはカーソル移動にすら戸惑うケースが考えられる。なるべく操作の手間を少なく、という工夫は緊急時にこそ必要ではないだろうか。

「質問に関してはノーコメントとさせてもらうが、引き続き全力で改善していきたい」（民放キー局）という回答にこそ、各局担当者の思いが込められているように感じた今回の一件。ネットニュースやつぶやきサイトに負けない、放送の自力の高さを見せてほしい。